

栗田工業株式会社

2016年3月期 第2四半期決算説明会

(証券コード: 6370)

2015年10月30日

I 2016年3月期上期実績

II 2016年3月期通期計画

III 事業の今後の見通し

参考資料

I . 2016年3月期上期実績

1. 業績ハイライト
2. 受注高・売上高・営業利益・営業利益率
3. 水処理薬品事業
4. 水処理装置事業(電子産業向け)
5. 水処理装置事業(一般産業向け)
6. サービス事業売上高
7. 海外事業売上高
8. 設備投資・減価償却費・研究開発費
9. 財政状態

1. 業績ハイライト

(億円)

	2015/3期 上期実績	2016/3期 上期期初計画	2016/3期 上期実績	前年同期比
受注高	970	1,112	1,100	+ 13.4%
売上高	890	1,014	979	+ 10.1%
営業利益	86	87	91	+ 5.8%
経常利益	92	89	95	+ 3.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	59	55	58	- 2.1%

- 受注高は、水処理薬品が買収効果により増加し、水処理装置も海外を中心に増加した。
- 売上高は、水処理装置は減少したが、水処理薬品が買収効果により増加した。
- 営業利益は、水処理薬品が減少したが、水処理装置が増加した結果、グループ全体で増益となった。

I. 2016年3月期上期実績

2. 受注高・売上高・営業利益・営業利益率

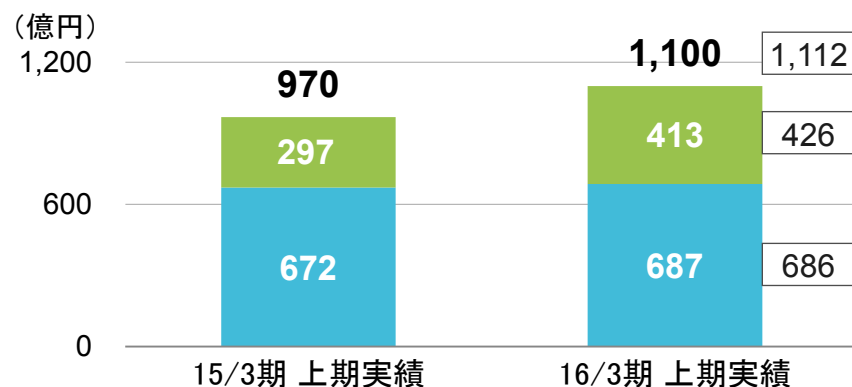
■ ● 水処理薬品事業

■ ● 水処理装置事業

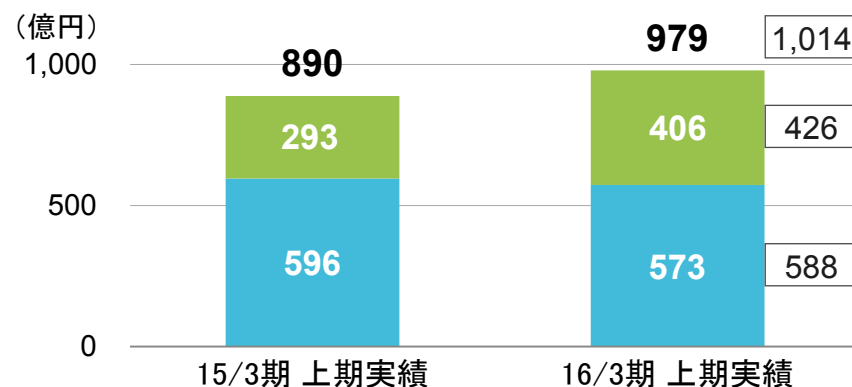
● 全社

* □ 内は期初計画

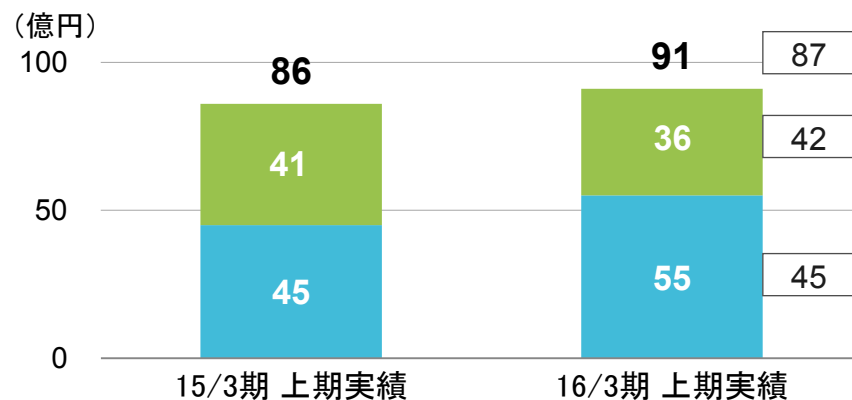
受注高



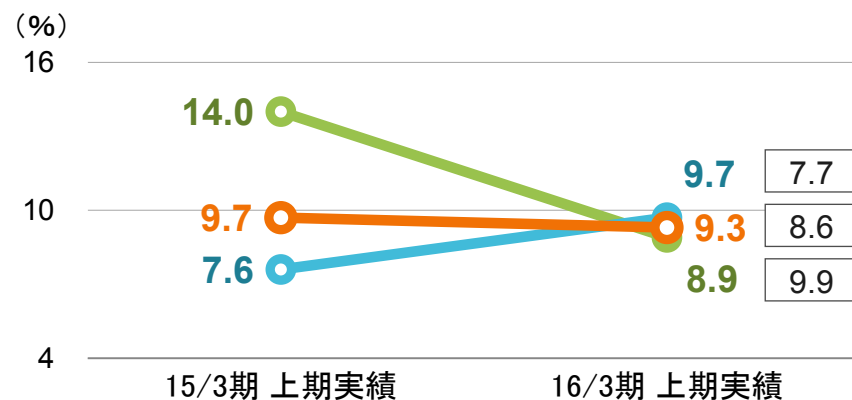
売上高



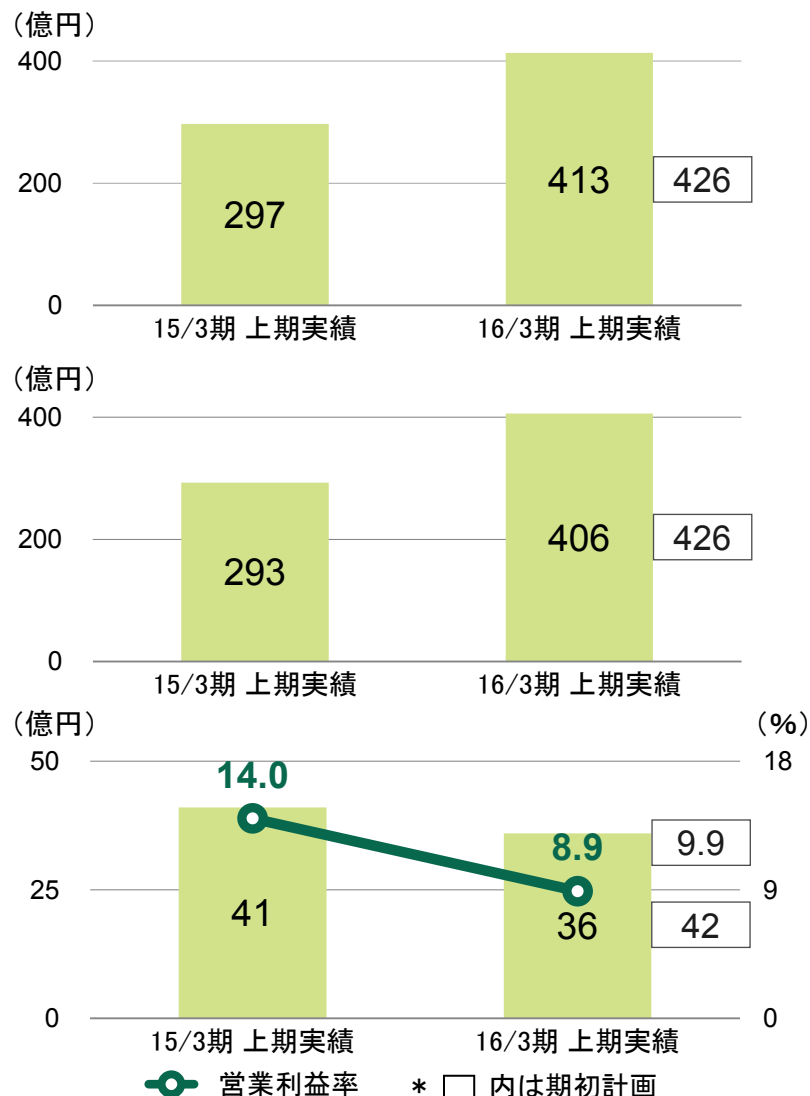
営業利益



営業利益率



3. 水処理薬品事業



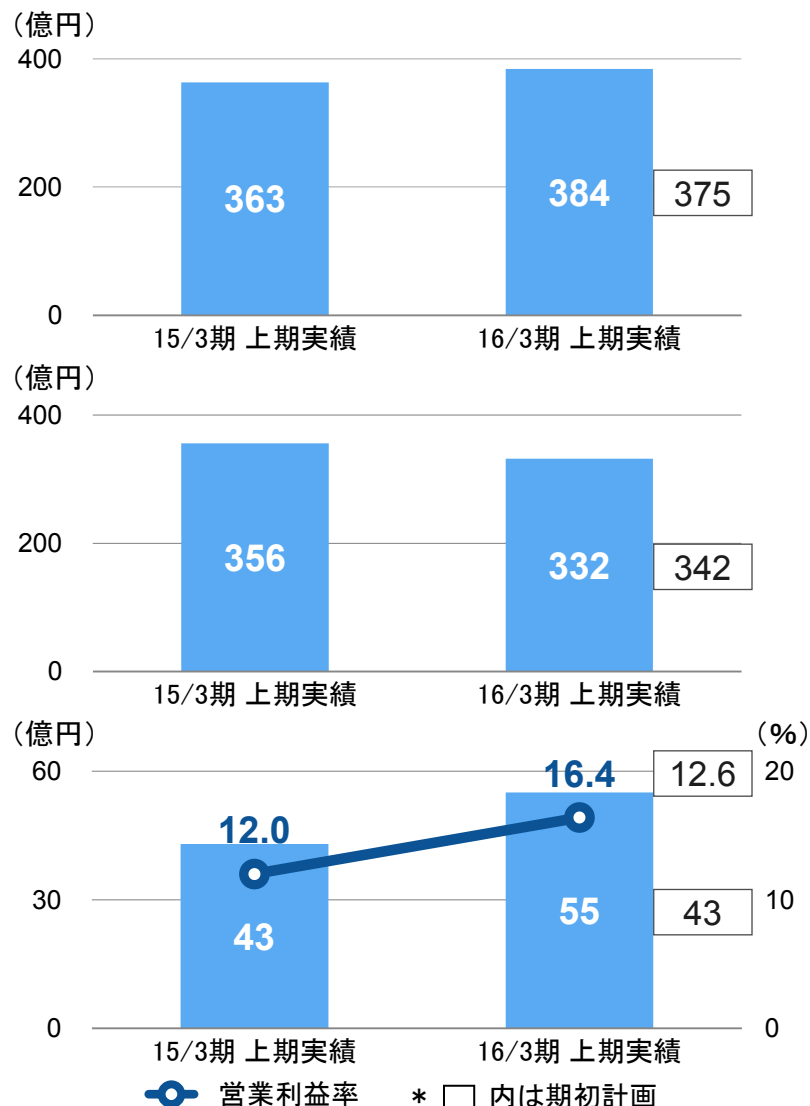
受注高・売上高

- 国内は顧客の工場操業度の回復が弱く、主力商品が伸び悩んだ。
- 国内売上高は前期比でほぼ横ばい。
- 海外は欧州での買収効果で大幅増加。
- 中国や東南アジアでも順調に拡大した。
- 買収したKEAG (Kurita Europe APW GmbH) の1月分は連結せず。

営業利益

- 増収効果はあったものの、買収に伴う販管費の増加や原価率の悪化により減益となった。
- KEAGを除くベースでは微増。
- 期初計画を下回った主な要因は、PPA (Purchase Price Allocation) による影響。

4. 水処理装置事業（電子産業向け）



受注高

- 国内メンテナンスが需要回復により増加した。
- 超純水供給事業が増加した。
- 海外ハードは、中国や台湾で大型案件を獲得したが、前年同期に高水準だった東南アジアが減少した。

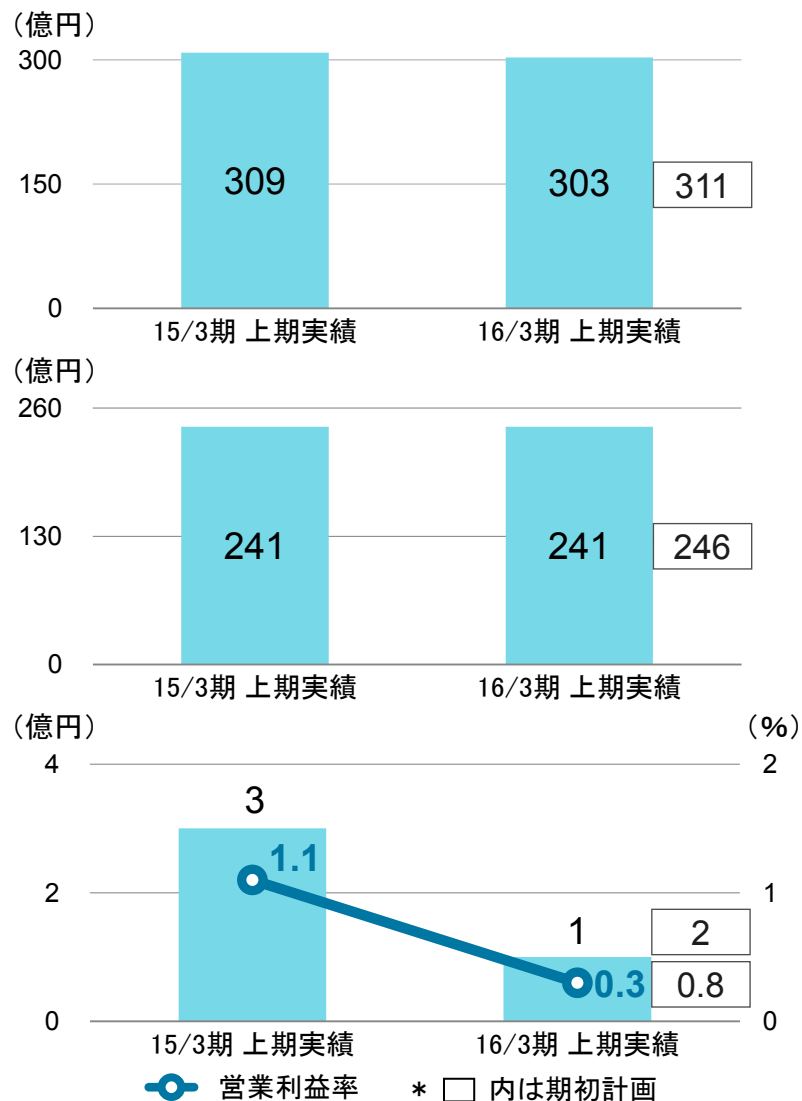
売上高

- 海外ハードは大型案件の売上計上が一巡し減少した。
- 精密洗浄が不採算事業撤退により減少した。
- 国内メンテナンスや超純水供給事業は増加した。

営業利益

- 減収の影響や販管費の増加はあったものの、原価率の改善により増益となった。

5. 水処理装置事業（一般産業向け）



受注高

- 土壌浄化が高水準だった前期に比べ減少した。
- 一般産業向けハードや電力向けハードは概ね横ばい。

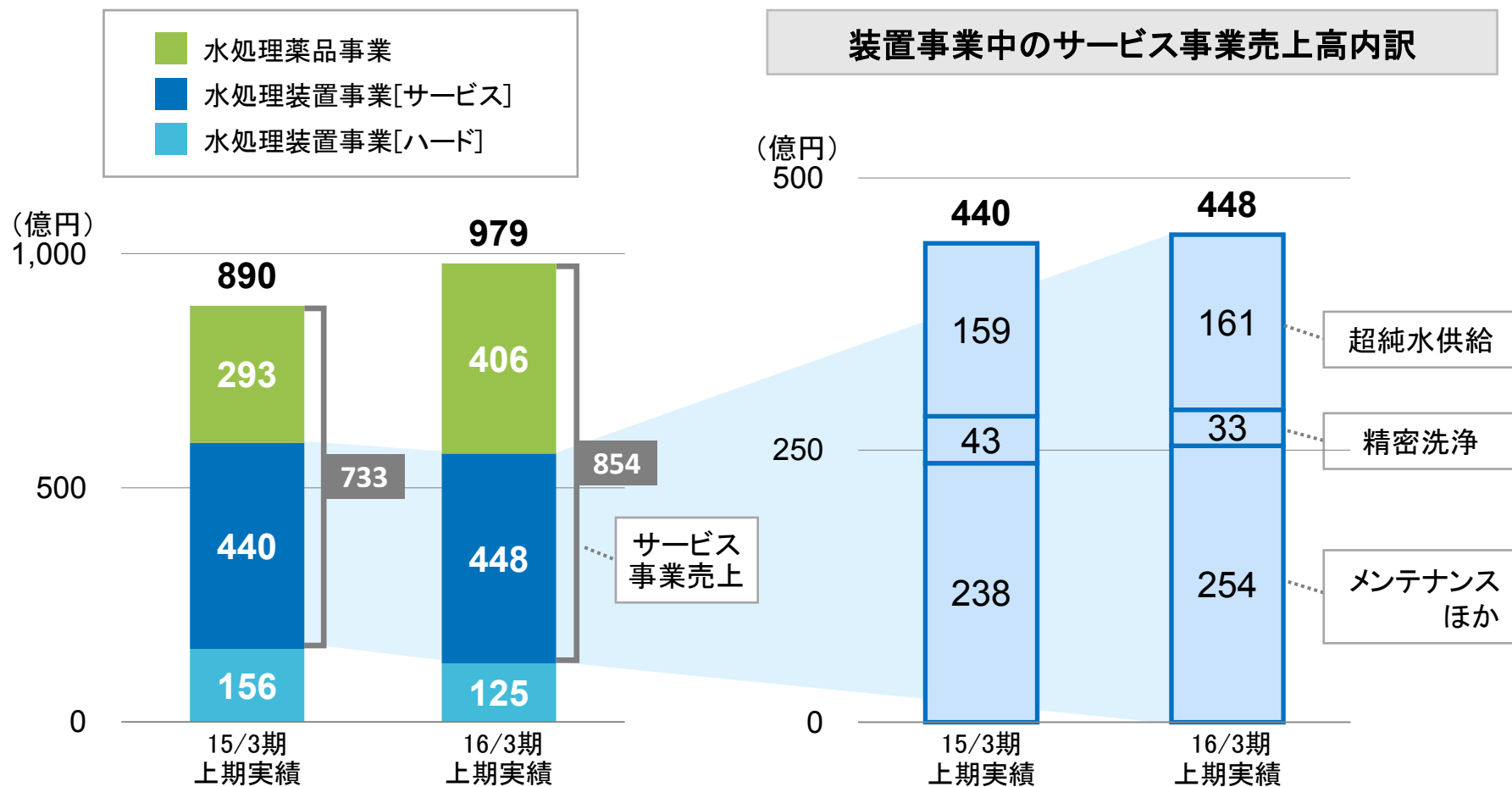
売上高

- 一般産業向けハードが工事進捗の遅れにより減少した。
- 電力向けハードは工事進捗により増加した。

営業利益

- 原価率の悪化と販管費の増加により減益となった。

6. サービス事業売上高



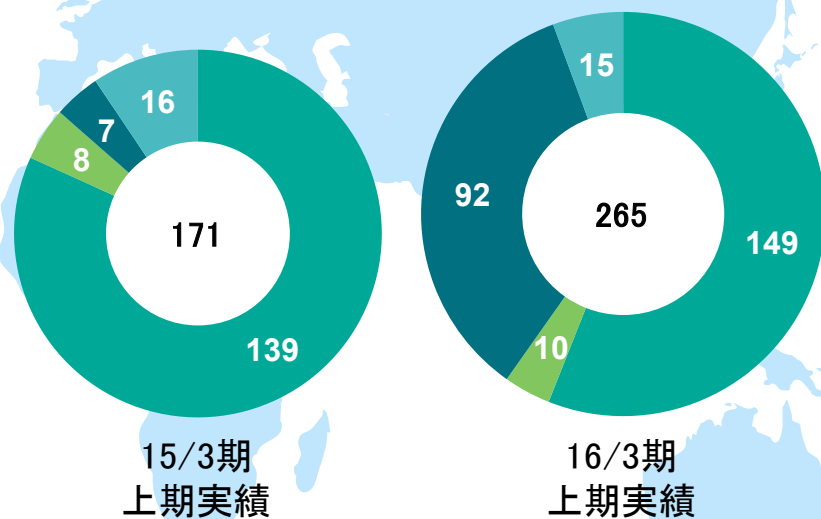
- 買収の効果で薬品の売上高が大幅に増加した。
- 精密洗浄が減少したが、メンテナンスと超純水供給事業が増加した。

7. 海外事業売上高

海外地域別売上高

アジア 北米 欧州 その他

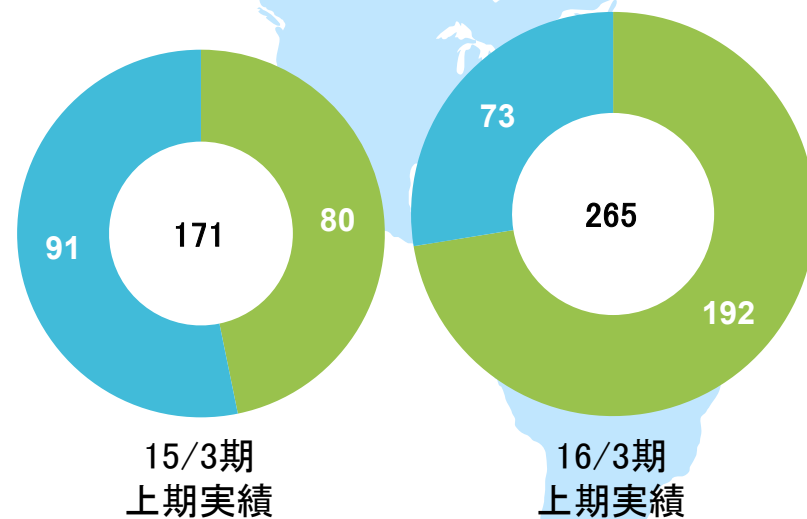
(単位: 億円)



海外事業別売上高

水処理薬品事業 水処理装置事業

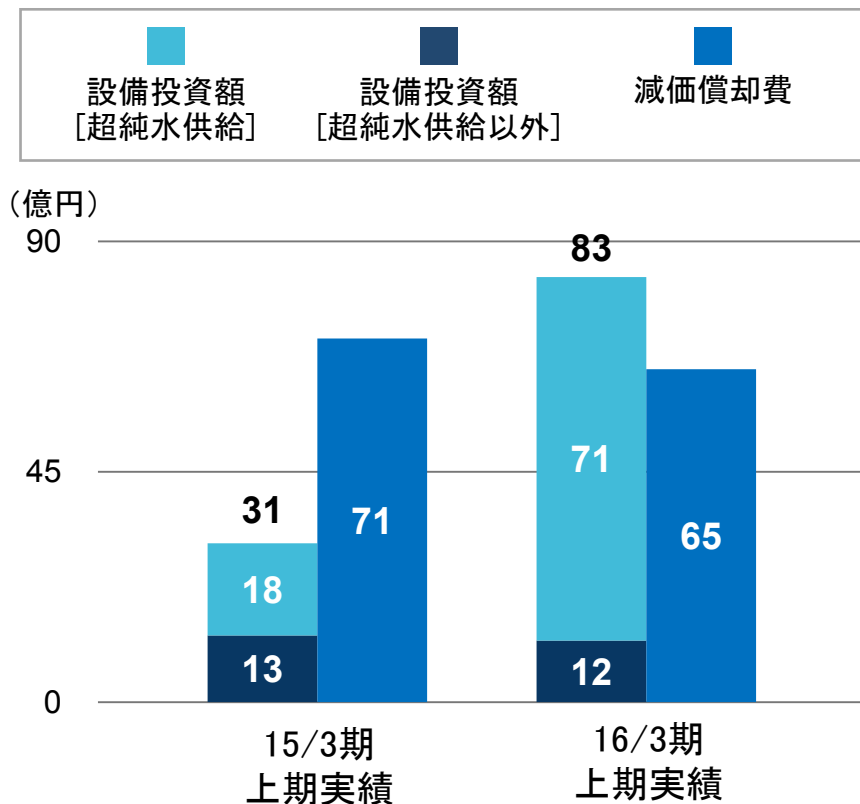
(単位: 億円)



- 水処理薬品事業は、買収の効果で欧州売上高が大幅に増加し、アジア売上高も増加した。
- 水処理装置事業は、大型案件の売上計上の一巡により減少した。

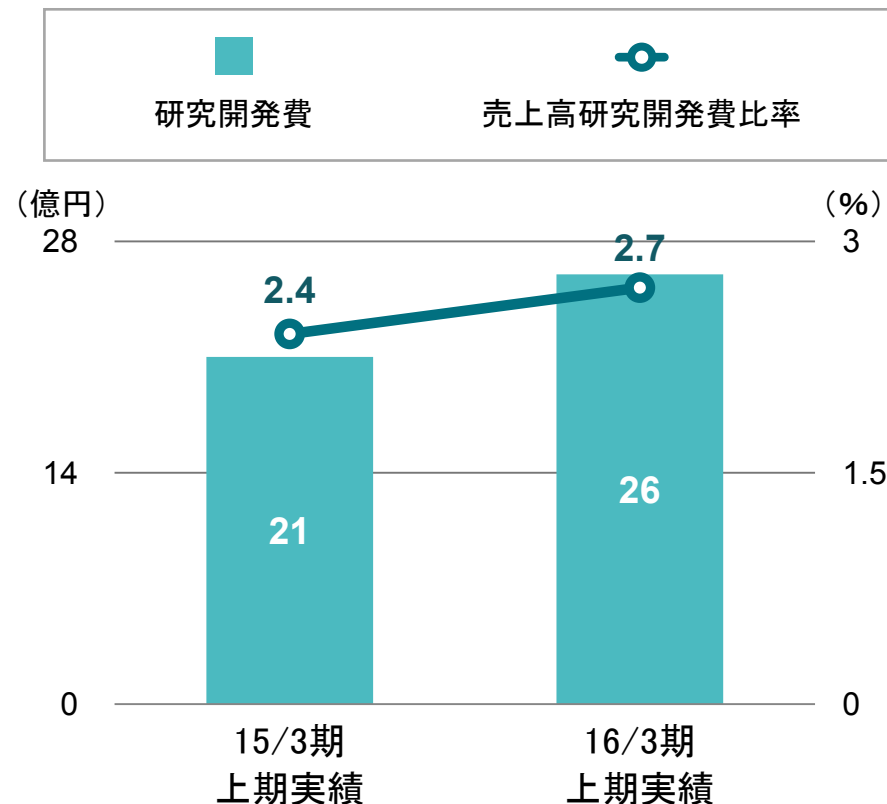
8. 設備投資・減価償却費・研究開発費

設備投資・減価償却費



■ 超純水供給事業の設備投資が大幅に増加した。

研究開発費

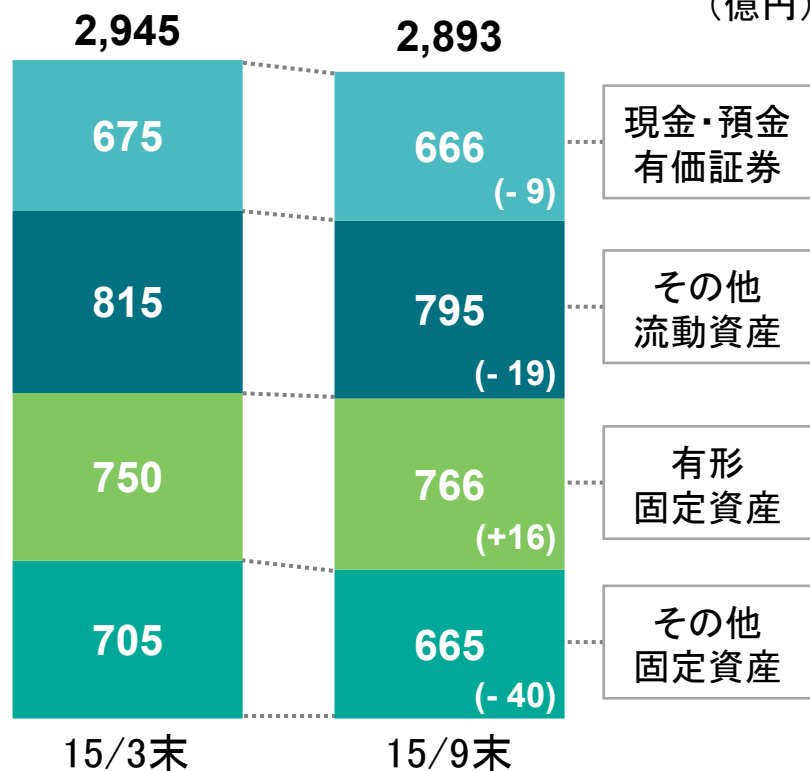


■ 競争力のある商品・技術の開発に注力し増加した。

9. 財政状態

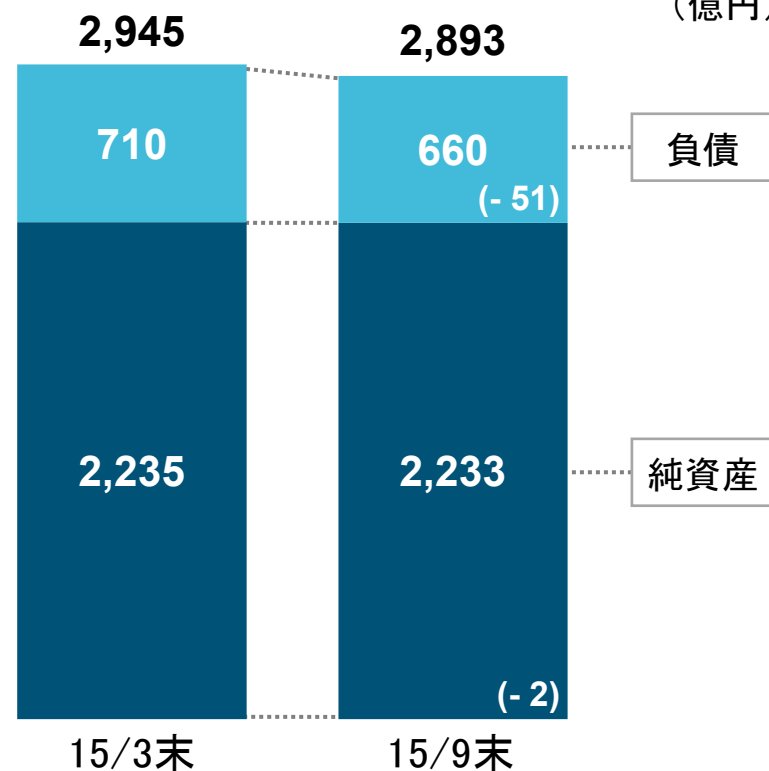
資産

(億円)



負債・純資産

(億円)



- その他流動資産では、売掛金が減少した。
- 有形固定資産では、新規の超純水供給事業に係る建設仮勘定が増加した。
- その他固定資産では、投資有価証券の含み益が減少したため、投資その他の資産が減少した。

Ⅱ．2016年3月期通期計画

1. 前提条件
2. 総括
3. 受注高・売上高・営業利益・営業利益率
4. 水処理薬品事業
5. 水処理装置事業（電子産業向け）
6. 水処理装置事業（一般産業向け）
7. サービス事業売上高
8. 海外事業売上高
9. 設備投資・減価償却費・研究開発費
10. 配当方針

1. 前提条件



水処理薬品事業

- 国内の顧客操業度の急激な回復は見込みづらい。
- 中国経済の減速による影響が懸念される。



水処理装置事業

- 国内製造業の水処理装置に対する設備投資は引き続き低調。
- 国内外で国際競争力を持つ企業の設備投資は継続する。

2. 総括

(単位:億円)

	2015/3期 実績	2016/3期 期初計画	2016/3期 計画	前期比
受注高	1,813	2,170	2,150	+ 18.6%
売上高	1,894	2,160	2,140	+ 13.0%
営業利益	194	195	195	+ 0.3%
経常利益	189	200	200	+ 5.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	104	123	123	+ 17.9%

- 受注高は、水処理薬品が買収により大幅増加し、水処理装置も海外を中心に増加する。期初計画は下方修正。
- 売上高は、前期に比べ増加するが、期初計画を下方修正する。
- 営業利益は、販管費は増加するものの、原価率の改善と増収効果により横ばいを見込む。

3. 受注高・売上高・営業利益・営業利益率

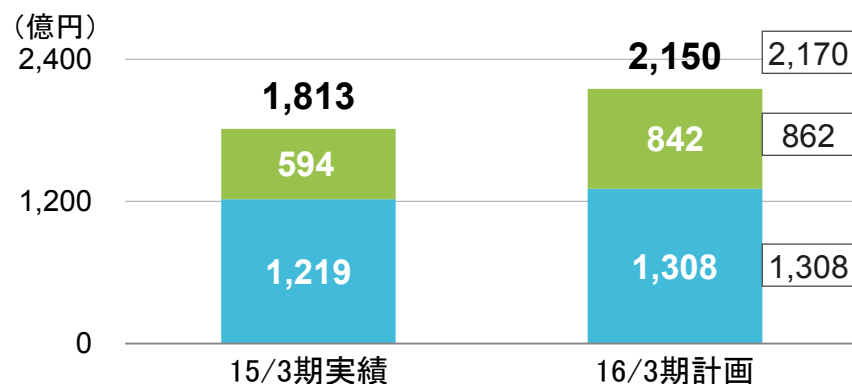
■ ● 水処理薬品事業

■ ● 水処理装置事業

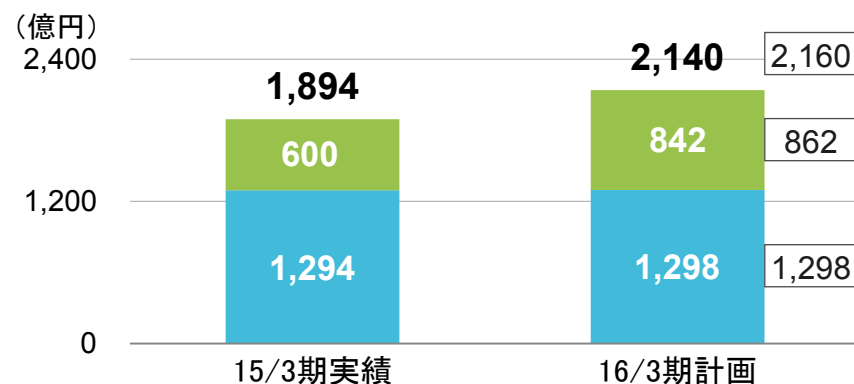
● 全社

* □ 内は期初計画

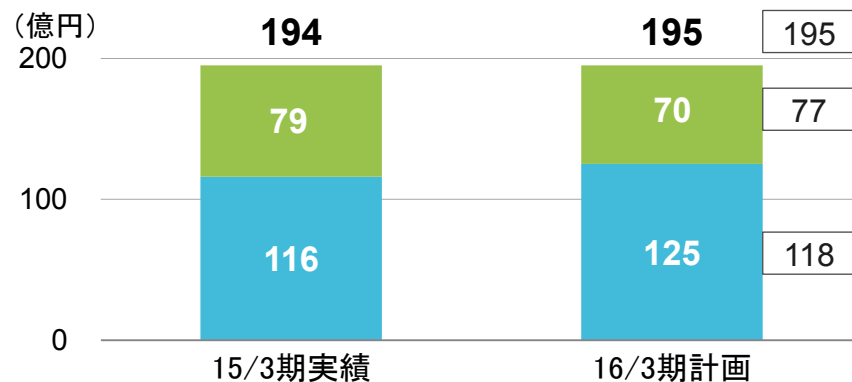
受注高



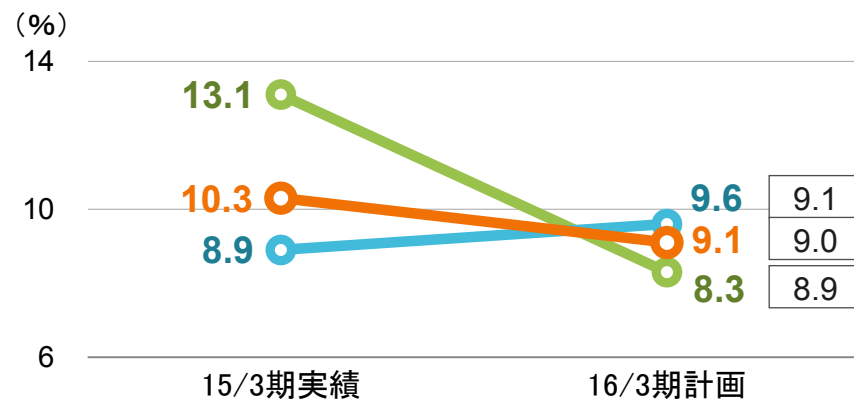
売上高



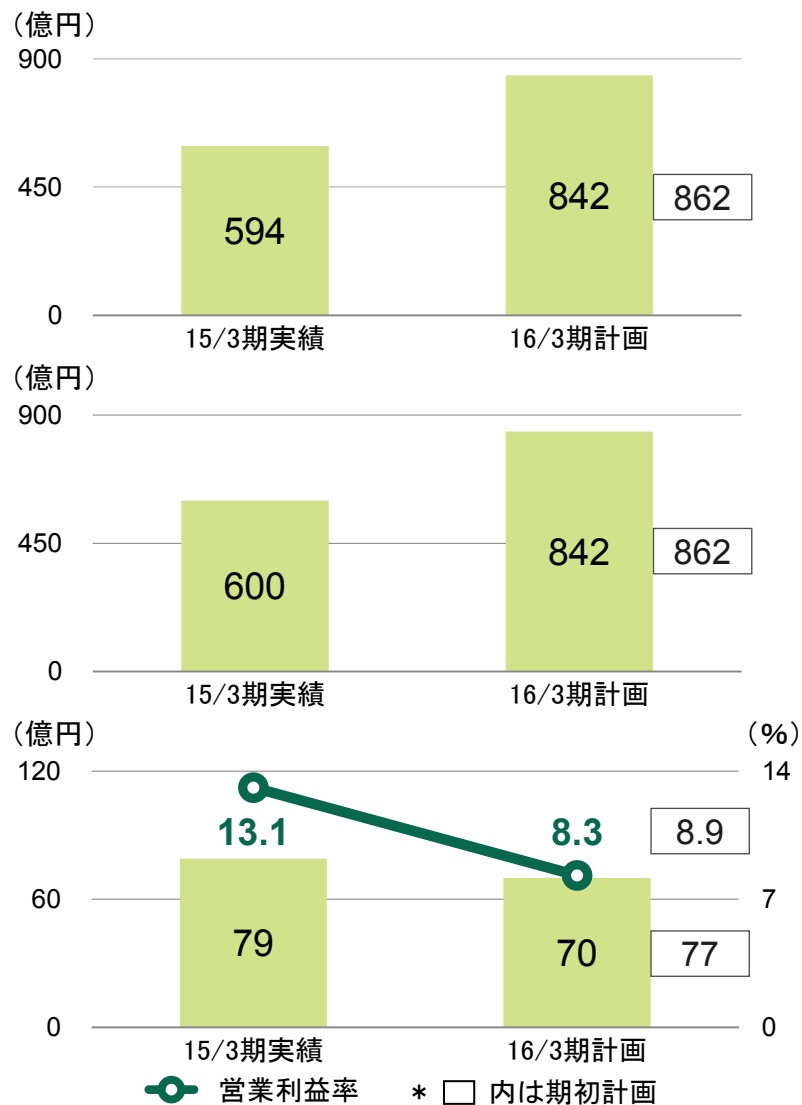
営業利益



営業利益率



4. 水処理薬品事業



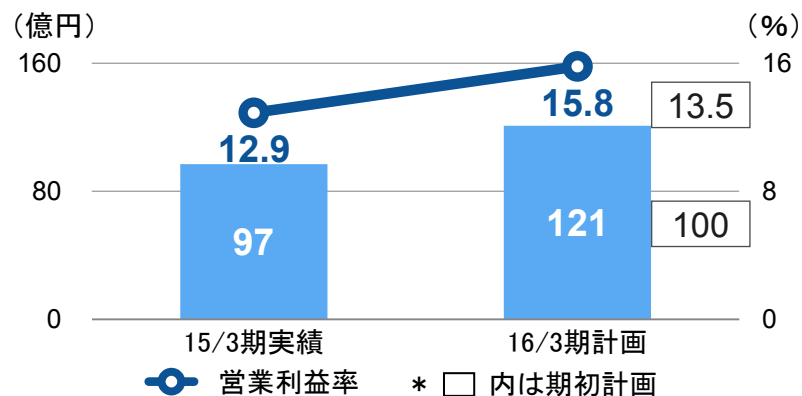
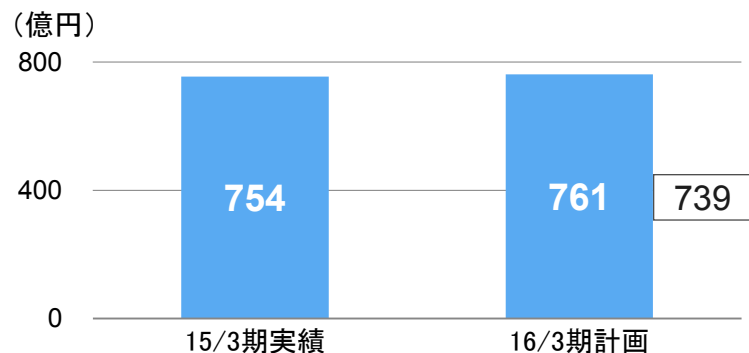
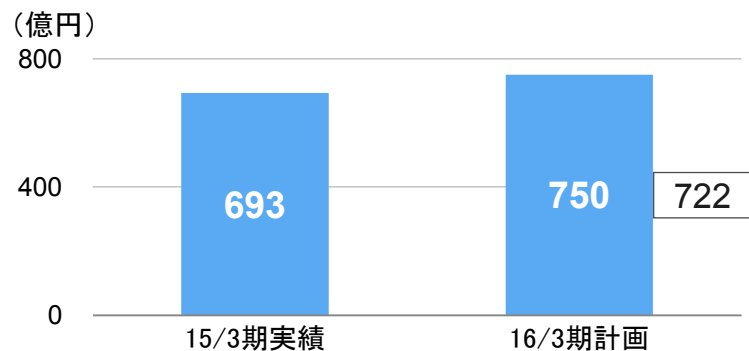
受注高・売上高

- 国内は顧客操業度の回復は見込みづらく、前期比でほぼ横ばい。
- 海外は欧州での買収効果で大きく増加。
- 中国や東南アジアでも売上高の拡大が継続。
- KEAGの1ヵ月分を下方修正。

営業利益

- 増収効果はあるものの、販管費の増加や原価率の悪化により減益を見込む。
- KEAGを除くベースではほぼ横ばいとなる見込み。
- 期初計画を下方修正した主な要因は、PPAによる影響。

5. 水処理装置事業（電子産業向け）



受注高

- 海外ハードが中国や韓国を中心に増加。
- 国内ハードでは超純水供給事業の顧客向けの装置受注が増加。
- 国内メンテナンスは需要回復により増加。

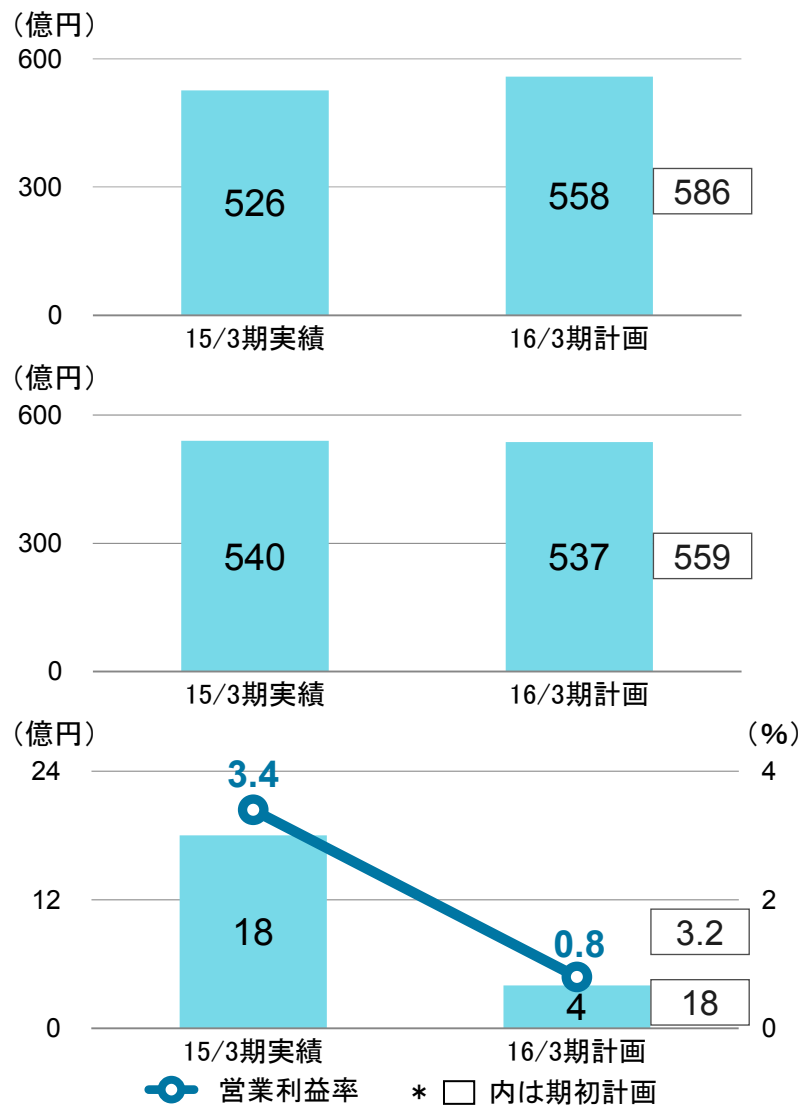
売上高

- メンテナンスが国内・海外ともに増加。
- 超純水供給事業は下期に満期を迎える案件があり微減。
- 精密洗浄事業が不採算事業撤退により減少。

営業利益

- 原価率の改善により増益を見込む。

6. 水処理装置事業（一般産業向け）



受注高

- 一般産業向けハードはキャンセルがあった前期と比較して増加。
- 一般産業向けメンテナンスは提案活動強化により増加。

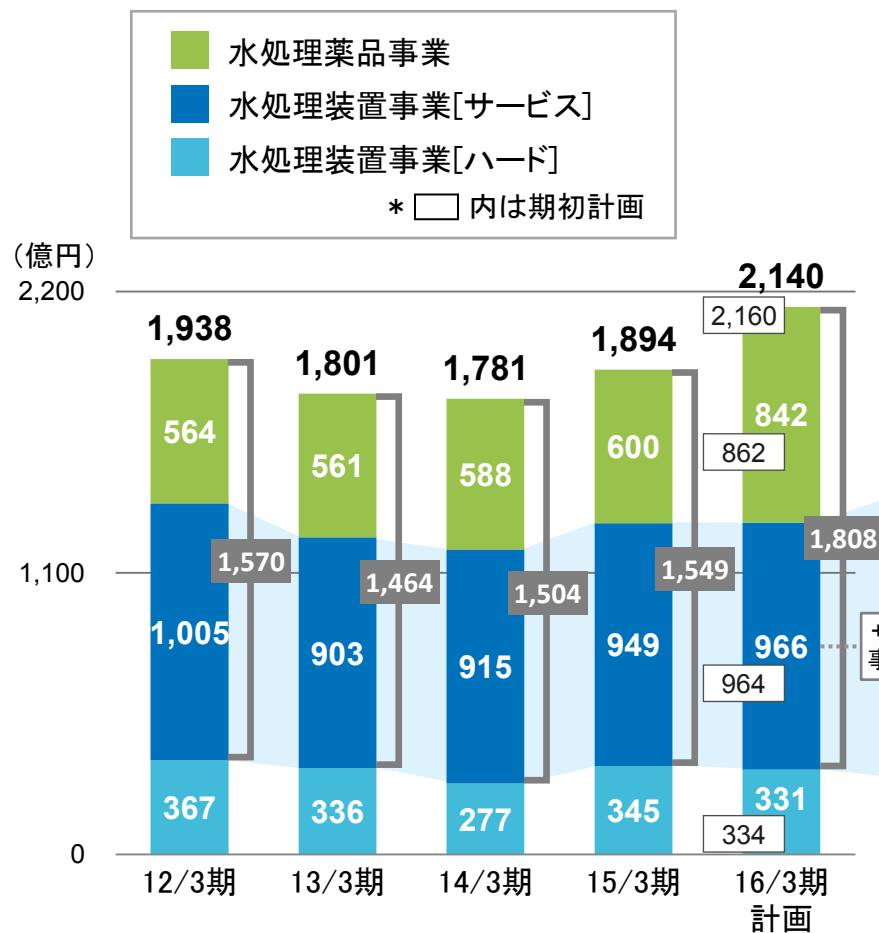
売上高

- 一般産業向けハードが工事進捗の遅れにより減少。
- 一般産業向けメンテナンスは受注増加により増収を見込む。
- 土壌浄化が工事進捗により増加。

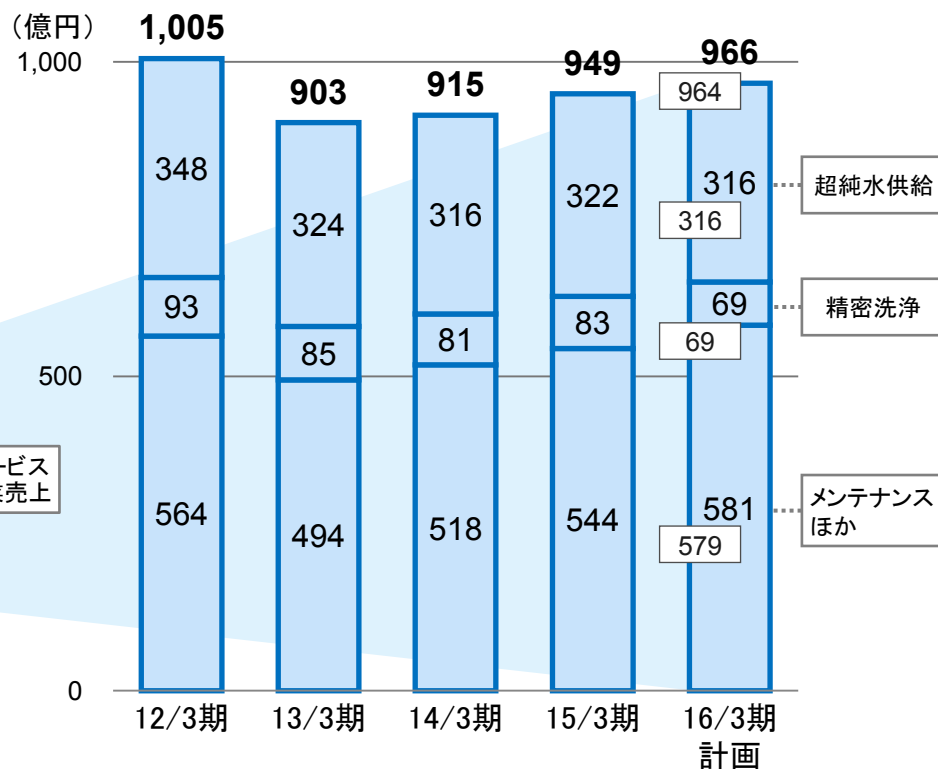
営業利益

- 原価率の悪化と販管費増加により減益を見込む。

7. サービス事業売上高



装置事業中のサービス事業売上高内訳



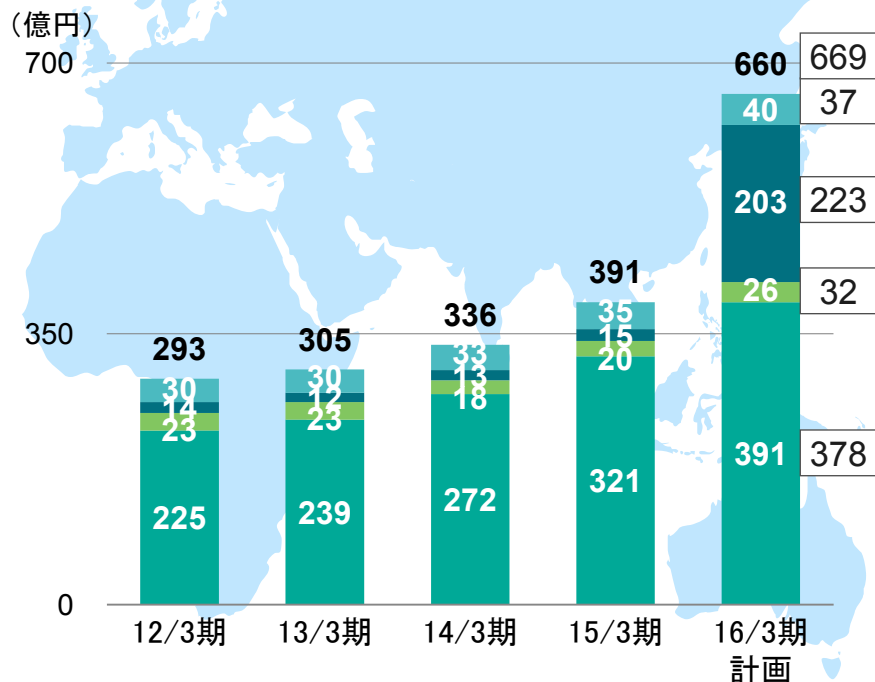
■ 16/3期は水処理薬品とメンテナンスの増加で、サービス事業売上高比率は84.5%を見込む。

8. 海外事業売上高

海外地域別売上高

■ アジア
 ■ 北米
 ■ 欧州
 ■ その他

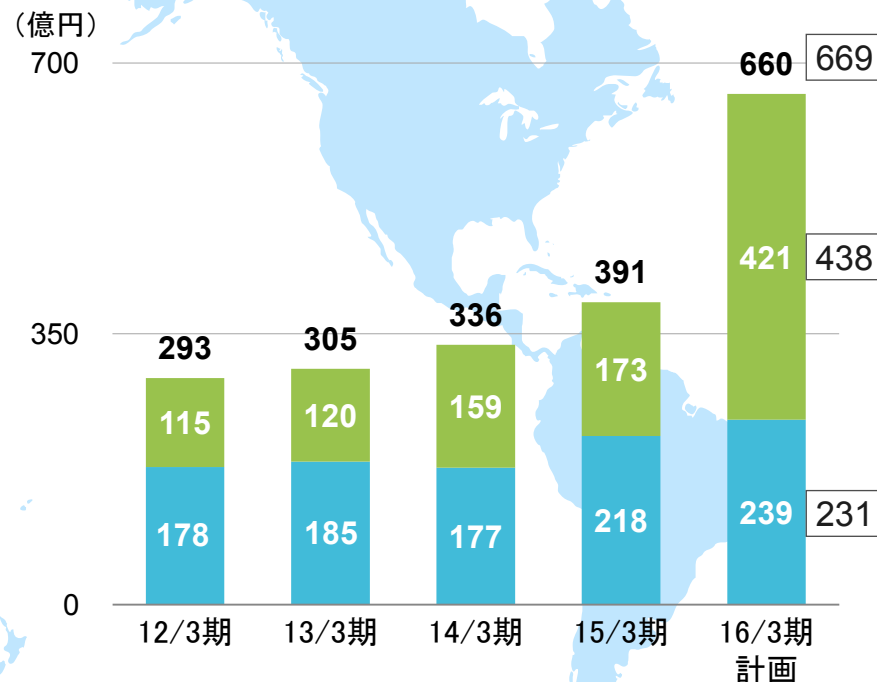
* □ 内は期初計画



海外事業別売上高

■ 水処理薬品事業
 ■ 水処理装置事業

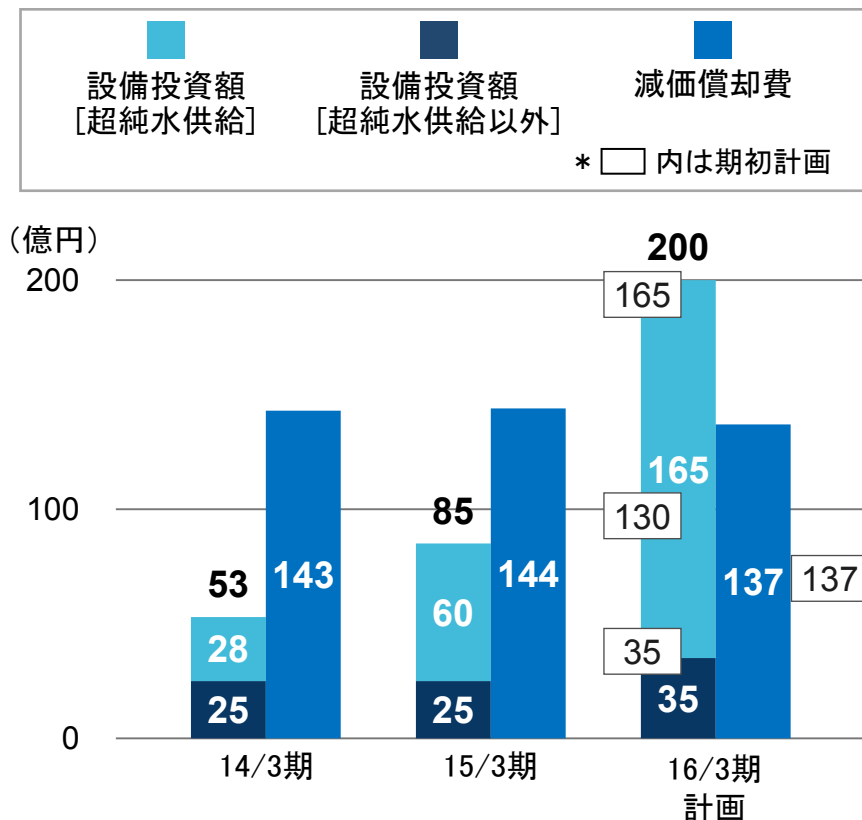
* □ 内は期初計画



- 16/3期は買収案件の寄与により、欧州売上高・水処理薬品売上高が大きく増加する見込み。
- 海外売上高比率は31%に上昇。

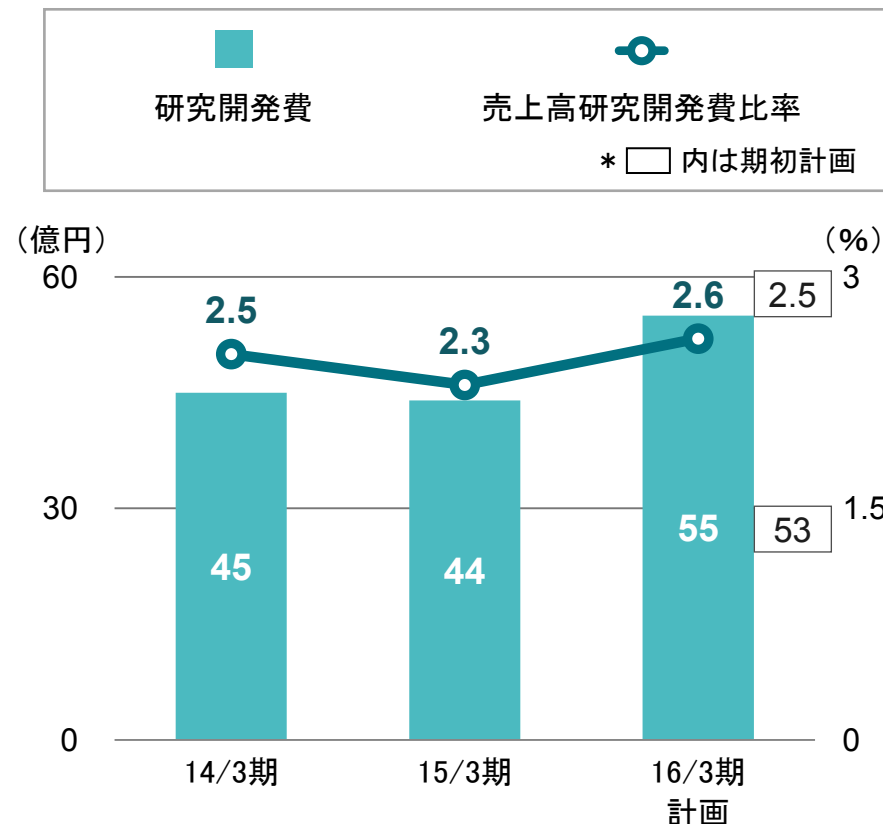
9. 設備投資・減価償却費・研究開発費

設備投資・減価償却費



■ 16/3期は超純水供給事業の設備投資の大幅増加で設備投資額は減価償却費を上回る。

研究開発費



■ 16/3期はKEAGとの技術シナジーや総合力の発揮を目指し資金を投入。

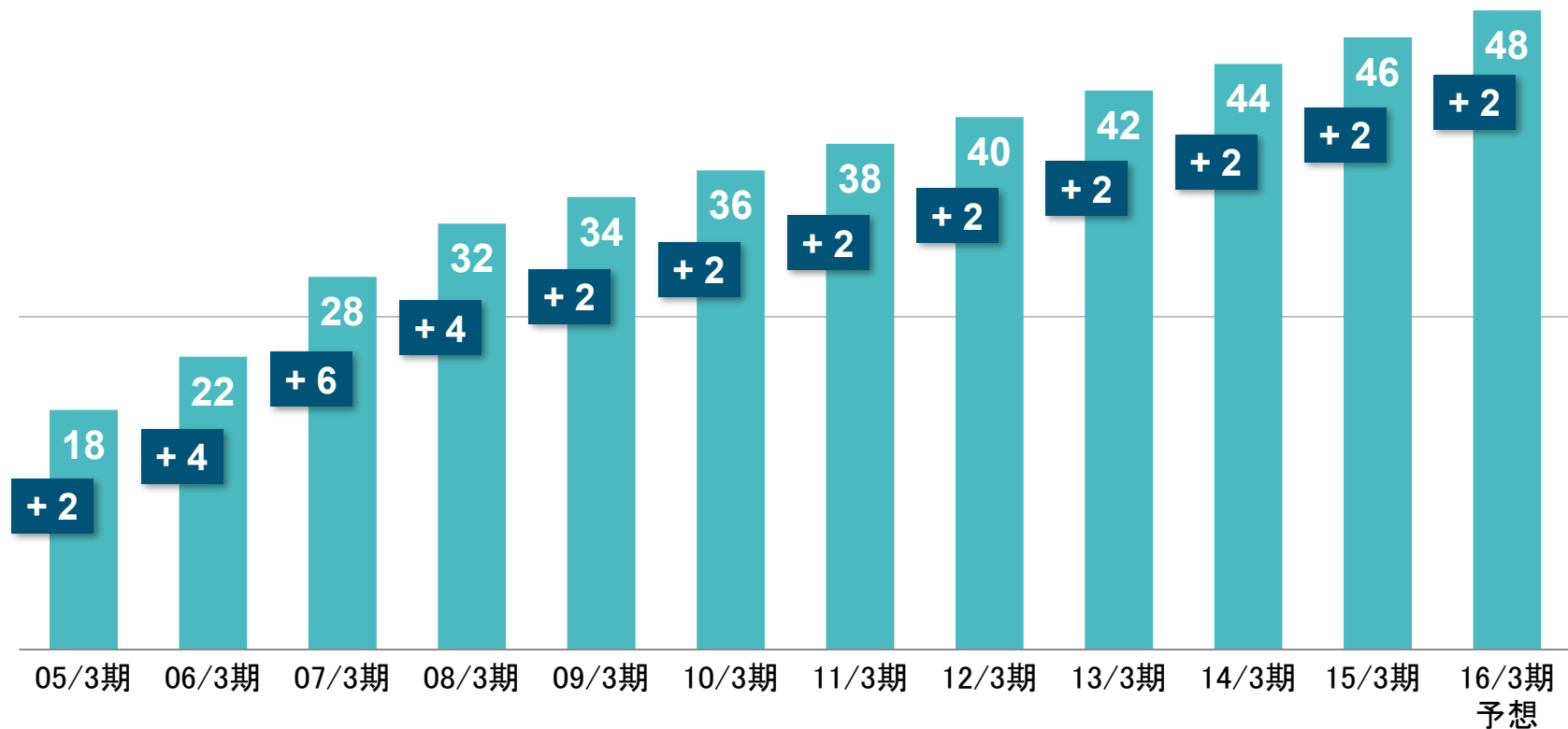
10. 配当方針

(円)

50

25

0



【配当に関する基本方針】

安定配当の継続を基本方針とし、直近5年間通算での配当性向は30～50%を目安として増配の継続に努めます。

Ⅲ．事業の今後の見通し

1. KEAG (Kurita Europe APW GmbH) の業績 (2015年度)
2. 超純水供給事業の主な投資案件
3. 超純水供給事業の売上高見通し (2016年3月期)
4. 新事業

Ⅲ. 事業の今後の見通し

1. KEAG(Kurita Europe APW GmbH)の業績(2015年度)

(単位:億円)

	上期(2月-6月)実績		通期(2月-12月)計画	
	PPA前*注	PPA後	PPA前	PPA後
売上高	99	99	224	224
営業利益 (のれん・技術関連資産償却前)	8	1	14	6
営業利益 (のれん・技術関連資産償却後)	1	△5	△1	△8

* 注: PPAとは「Purchase Price Allocation(取得原価の再配分)」の略称で、被買収会社の資産・負債を公正価値にて評価し、連結財務諸表に取り込むこと。

■ シナジー効果の発揮に注力する。

- 2015年度下期からクロスセルをスタートさせた。
- ITなどインフラの自律化・統合と内部管理体制の強化を推進中。

Ⅲ. 事業の今後の見通し

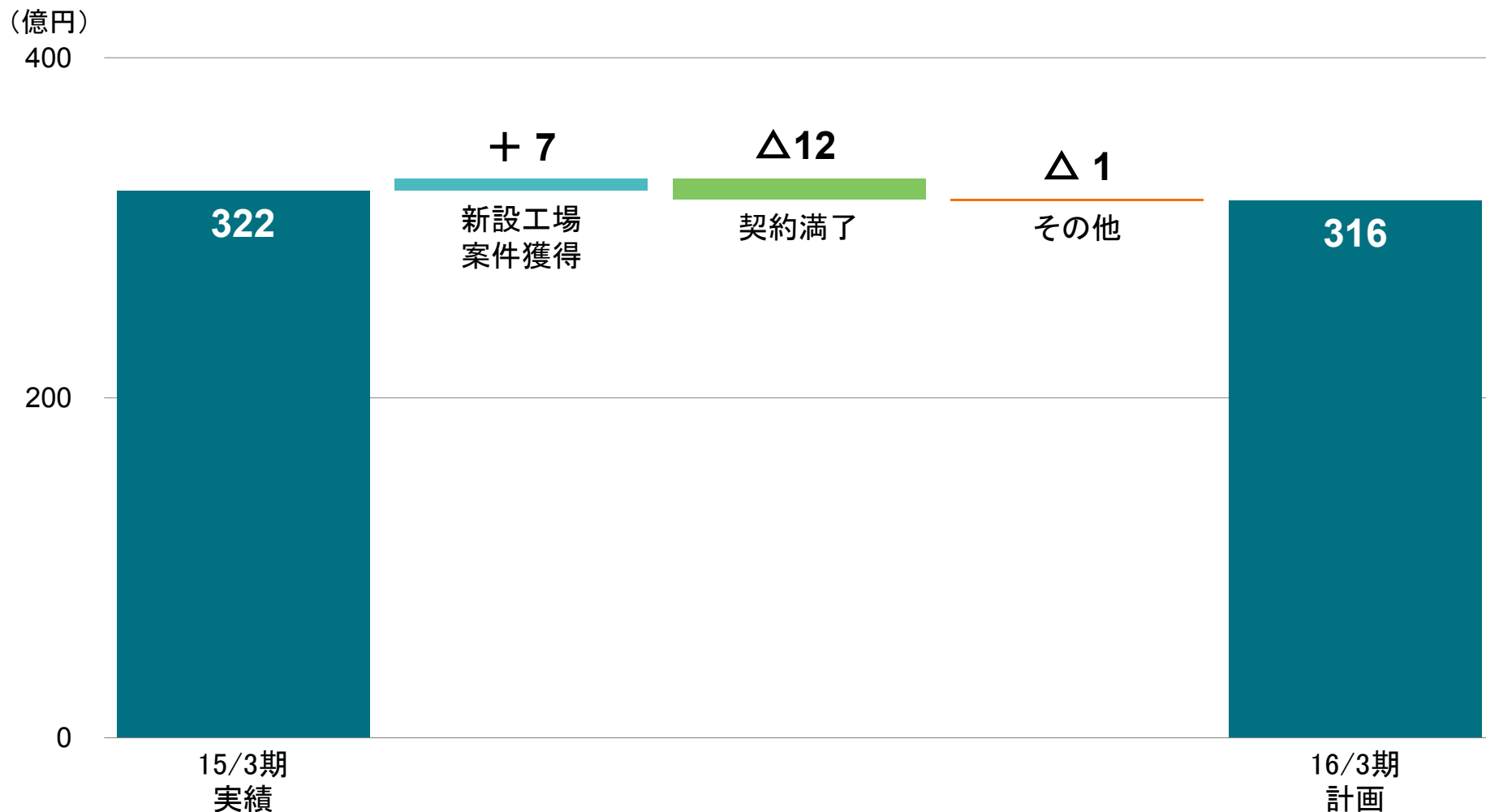
2. 超純水供給事業の主な投資案件

	投資額(億円)	水供給開始時期
国内 液晶・半導体	125	2016年3月期下期 、 2017年3月期下期
国外 液晶・半導体	50	
合計	175	

- 海外の新規顧客案件についてはリスクを見極めながら、積極的に取り組む。

Ⅲ. 事業の今後の見通し

3. 超純水供給事業の売上高見通し(2016年3月期)



Ⅲ. 事業の今後の見通し

4. 新事業

国際宇宙ステーション / 「きぼう」日本実験棟向け「次世代水再生実証システム」をJAXAから受注

■ 経緯

2011年からJAXA*¹と共同でISS*²の内部で発生する水分(尿)を回収して使用可能なレベルの水質まで再生処理する「水再生システム」の研究を進めてきたが、この度フライト品の制作を受注。(処理能力1リットル/日)

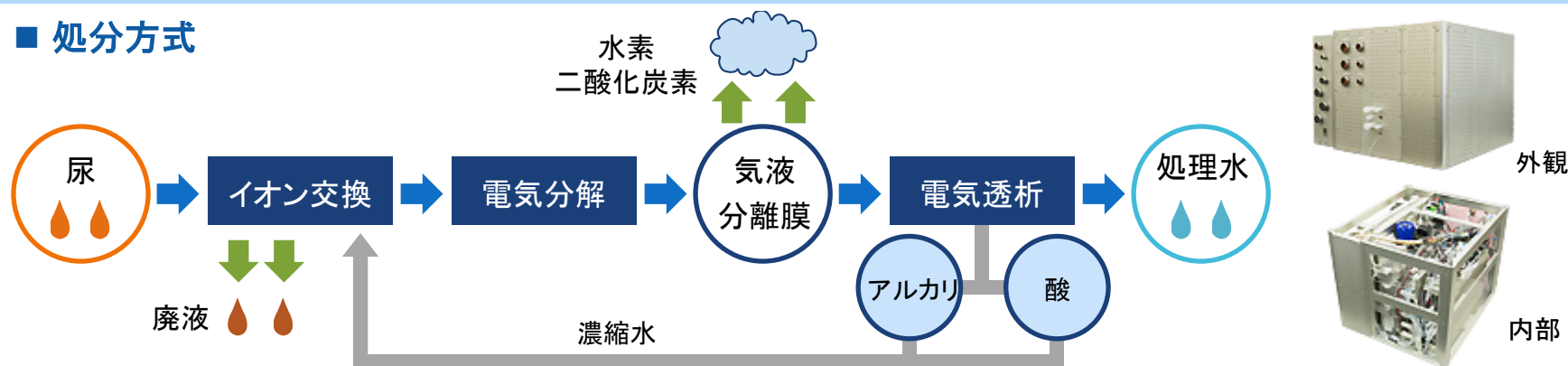
■ 特長

- 再生率85%以上
- 小型軽量(現在ISS*²で使用されている水再生システムの4分の1)
- 低消費電力(同2分の1)
- メンテナンスフリー(樹脂交換不要)

■ 今後の予定

2016年度をめどにISS*²に運ばれ、JAXA*¹による「きぼう」日本実験棟での実証実験を行う。

■ 処分方式

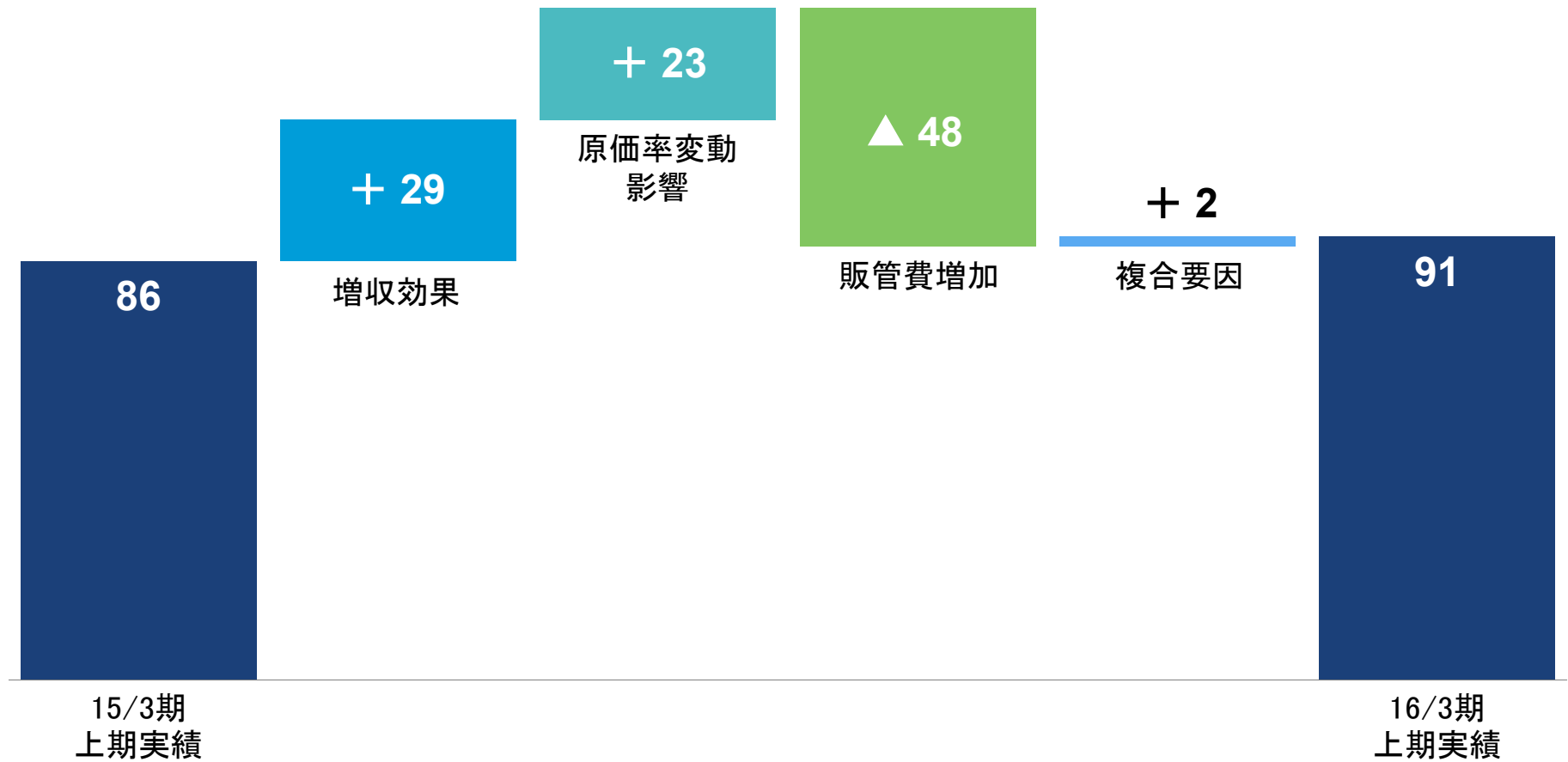


注: *1 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

*2 国際宇宙ステーション

2016年3月期上期 営業利益増減分析

(単位: 億円)



注* 原価率変動影響は、売上総利益率を用いて算出しています。



■ U R L ■ <http://ir.kurita.co.jp/>
■ M A I L ■ ir@kurita.co.jp

【 将来見通しに関する注記事項 】

本資料に掲載されている計画数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。